

# 世界農業 遺産認定

## 武蔵野の 落ち葉堆肥 農法

農政課 ☎224-5939  
☎224-8712

埼玉県武蔵野地域(川越市・所沢市・ふじみ野市・三芳町)の伝統的な農法である「武蔵野の落ち葉堆肥農法」が、国連食糧農業機関(FAO)から関東地方では初めて「世界農業遺産」に認定されました。

### 若手農業者にインタビュー



落ち葉堆肥農法を実践している若手農業者の<sup>おおき ひろし</sup>大木洋史さん(上写真左)、<sup>なるかわかずなり</sup>鳴河一成さん(上写真中央)、<sup>とだ いすけ</sup>戸田大輔さん(上写真右)。今後の落ち葉堆肥農法を守っていく後継者の3人にお話を伺いました。

#### ❖世界農業遺産に認定された感想を教えてください

**大木さん** 世界農業遺産に認定されるためにずっと活動していたので、その成果として認定していただけたのは素直に嬉しいです。

**鳴河さん** 世界農業遺産に認定されたからには、それを維持していかなければいけないと思います。また、地域のブランドを作る上ではメリットになるとも考えています。

**戸田さん** 落ち葉堆肥農法が一般に認知されることで「里山を残そう」という機運が高まれば良いなと思います。

#### ❖落ち葉堆肥を使うとどのような効果がありますか

**大木さん** 落ち葉堆肥は栄養価が高いわけではないので、あくまで土づくり、つまり「畑を良くする」ために入れるものです。農家はそれぞれ土づくりにこだわっていますが、なかなか消費者に伝わりにくい。「落ち葉堆肥を使っている」というのはイメージしやすいため、説明する上での利点だと考えています。また、実際に野菜を食った方から「美味しい」という声もいただいています。

**鳴河さん** 雑木林には、畑を良くする菌やそのエサが豊富です。微生物の多様性が保たれている状況のものを堆肥として畑にすき込むことで、畑を豊かにすることができます。昔の人の知恵ですが、理にかなっていますよね。

**戸田さん** 色々な菌がいる方が病気も出にくくなるので、良いものができると思います。

#### ❖今後の意気込みを教えてください

**大木さん** いまある林の落ち葉を活用できることは有効だと思いますし、むしろ活用しない手はないと思いますので、ぜひ続けていきたいです。また、落ち葉堆肥農法を次世代に残すためには、もっと価値を上げていかなければいけないと考えています。将来、子どもたちが就職を考えるときに農業が選択肢の一つとなることを願って、落ち葉堆肥農法の活動を続けていきたいと思っています。



大木さん

**鳴河さん** 世界農業遺産の認定は、里山の景色など、地域の環境や江戸時代から続いている文化などを守り伝えていくために非常に意味があり、自分たちが農業を続けていく上での励みにもなります。また、生産者としてのPRにおいても強みになるので、できるだけこの落ち葉堆肥農法を残し、伝えていきたいです。



鳴河さん

**戸田さん** 実際に開発されてしまったところを見ると、もし自分が農家を継いでいなかったら、今の里山の風景は失われていたと思います。ふるさとの風景がなくなってしまうのは悲しいですから、昔からの風景をできるだけそのままの状態に残したいと思っています。



戸田さん





## 世界農業遺産

世界農業遺産(GIAHS)は、世界的に重要な伝統的農林水産業を営む地域を認定する制度のことで、国連食糧農業機関(FAO)が認定します。

世界で24か国78地域、日本では15地域が認定されています(令和5年7月現在)。

### 認定基準

申請地域は、世界的な重要性や申請地域の特徴、保全計画に基づき評価されます。FAOが定める認定基準は、①食料および生計の保障、②農業生物多様性、③地域の伝統的な知識システム、④文化、価値観および社会組織、⑤ランドスケープおよびシースケープの特徴の5つです。

## 武蔵野の落ち葉堆肥農法 世界農業遺産推進協議会



川崎市・所沢市・ふじみ野市・三芳町・埼玉県川越農林振興センター・いるま野農業協同組合で構成される協議会。世界農業遺産および日本農業遺産を目指すため、平成28年8月24日に発足しました。



### 世界農業遺産認定までの歩み

平成28年度	世界農業遺産承認および日本農業遺産への認定申請
平成29年3月14日	日本農業遺産に認定
令和2年度	世界農業遺産承認申請、世界農業遺産への認定申請に係る承認
令和3年10月7日	農林水産省から国連食糧農業機関(FAO)に世界農業遺産認定申請書を提出
令和5年6月22日	世界農業遺産科学助言グループ(SAG)委員による現地調査実施
令和5年7月5日	世界農業遺産に認定

## 落ち葉サポーター 大募集!!

落ち葉掃きに参加できるサポーターを募集しています。落ち葉堆肥農法の担い手不足のいま、農業遺産と一緒に守りませんか？

## ロゴマーク募集

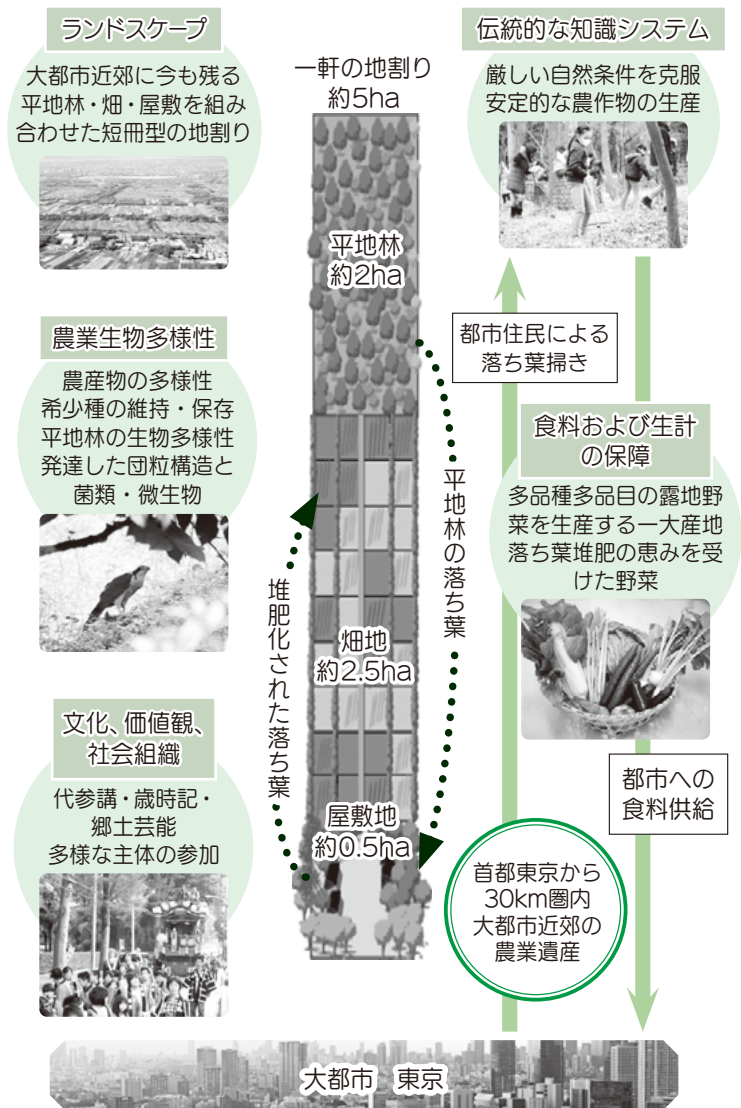
世界農業遺産「武蔵野の落ち葉堆肥農法」のイメージを象徴するロゴマークを募集します。

## 武蔵野の落ち葉堆肥農法

武蔵野台地特有の火山灰土で作物が育ちにくい土地に、多くの木を植えて平地林(ヤマ)として育て、その落ち葉を掃き集め、堆肥として畑にすきこんで土壌改良をする伝統農法のこと。武蔵野台地に位置する川崎市・所沢市・ふじみ野市・三芳町で、江戸時代から360年にわたり続けられている農法です。

都心から約30km圏内という立地にありながらも、平地林が育む里山は優れた景観・自然環境・文化を生み出し、生命力にあふれたシステムを今も継承し続けていることが世界に高く評価されました。

### ～循環のイメージと特徴～



## あなたも実践農業者になりませんか

## あなたも実践農業者になりませんか

落ち葉堆肥農法を実践している農業者は、同協議会に認定されると同農法の保全を図るための補助が受けられます。



埼玉県武蔵野地域が世界農業遺産に認定

\*それぞれについて詳しくは、市ホームページをご確認ください。